

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	町長等の秘書経費			担当課名	総務課
(予算書コード)	02-01-01-22-01			担当係名	秘書室
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	年	月 ~	年	月	(事業に始期又は終期がある場合に記入)
根拠法令等の名称					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	町長等が、町政の円滑な運営や執行を図るため、町を代表して行う表敬や交際などに対する必要経費であり、慶弔費、激励費や自動車借上料等が含まれる。					
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	交際費による 交付件数	同左	件	目 標		
				実 績	67	123
達成率						

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A		1,544 千円		1,861 千円		3,865 千円
	うち 会計年度任用職員人件費	人		人		人	
	正規職員人件費 B	1.70 人	11,248 千円	1.60 人	10,510 千円	2.00 人	13,556 千円
事業費合計 C (A+B)			12,792 千円		12,371 千円		17,421 千円
財源内訳	特定財源	国の負担					
		県の負担					
		町の借入					
		その他					
		うち 使用料・手数料 D					
一般財源 (町の負担)			12,792 千円		12,371 千円		17,421 千円
受益者負担率 (D/C)			0 %		0 %		0 %

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町以外では行えない 町長等の公務遂行のために必要な秘書、渉外の業務に加え、町として行う式典、表彰等も実施しており、業務に際し秘密情報も取り扱うことから町以外では行えない。
公平性	A	適切である 交際費の支出に際しては内規を設け、一定の基準に従い、受益者や支出内容の偏りがないう、常に確認しながら運用している。
効率性	A	適切である 2名の秘書により、窓口、接客、電話対応、日程調整、運転業務等の日常業務を分担し実施している。
達成度		交際費は、必要に応じてその都度支出されるものであり、目標設定にはなじまない。

総合評価	現状維持	交際費の支出状況は、町ホームページ等を利用した情報公開により、透明性の確保を図っている。また、日程調整等において、できるだけ多くの方が町長等に対し、直接対話、要望等ができるよう柔軟な対応に努めている。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	現状維持	

令和4年度事務事業評価シート

【基本事項】

事務事業名	御柱祭関連事業			担当課名	総務課
(予算書コード)	02-01-01-24-01			担当係名	秘書室
事業区分	単年度予算	運営方法	直 営		
事業の開始・終了	令和 4 年 1 月 ~ 令和 4 年 5 月 (事業に始期又は終期がある場合に記入)				
根拠法令等の名称					

【事業の概要及び分析】

事業の目的 (誰に対して) (何のために) (何を行うか)	町長等が、御柱祭「山出し、里曳き」に、町内外の関係者をはじめ多くの方々を招き、観覧いただきながら交流を深めるとともに、下諏訪町の観光をPRすることを目的とする事業である。						
事業の活動成果 (事業の実施によりどのような状態にしたいか)	指標名	指標の算出方法	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度
	下社里曳き祭招待所来場者数	同左 (令和3年度は下社山出し祭案内状発送件数)	人	目 標			
				実 績	101	73	
				達成率			

【投入されたコスト・業務量】

		令和3年度決算		令和4年度決算		令和5年度予算	
事業費	事業費 A	292 千円		612 千円		千円	
	うち 会計年度任用職員人件費	人	千円	人	千円	人	千円
	正規職員人件費 B	0.30 人	1,985 千円	0.40 人	2,628 千円	人	0 千円
事業費合計 C (A+B)		2,277 千円		3,240 千円		0 千円	
財源内訳	特定財源	国の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		県の負担	千円	千円	千円	千円	千円
		町の借入	千円	千円	千円	千円	千円
		その他	千円	千円	千円	千円	千円
		うち 使用料・手数料 D	千円	千円	千円	千円	千円
一般財源 (町の負担)		2,277 千円		3,240 千円		0 千円	
受益者負担率 (D/C)		0 %		0 %		%	

【事業の評価】

区 分	評 価	説 明
妥当性	B	町以外では行えない 町と関係機関との良好な関係を築く上でも、地元にお招きし、観覧いただきながら交流を深めつつ、町をPRする目的もあることから、町以外では行えない。
公平性	A	適切である 招待にあたっては、特定分野の人などに偏りが出ないよう、各課と協力して対応した。なお、新型コロナの影響により、山出し祭は中止、里曳き祭は県内関係者に対象者を絞って実施した。
効率性	A	適切である 新型コロナの影響により、飲食を伴う長時間の接待等を行えないという事情もあり、招待所の設営もテント設置のみ、持ち運びできるPET飲料の提供のみなど、新型コロナ対応との兼ね合いで極力簡素化して実施した。
達成度		御柱祭への関係者の招待・来場件数については、交際状況や社会情勢によって変わるものであり、目標設定にはなじまない。

総合評価	廃 止	新型コロナの感染拡大の影響により、山出し祭が中止に、里曳き祭は検査を実施した者のみ参加できるなど、当初の想定とは全く違う展開になり、それぞれ直前まで対応が決まらない部分などがあったが、対応可能な範囲で所期の目的は達成できたものとする。
	拡 充	御柱祭の終了による事業終了。
前年度の総合評価 (評価が変わった場合はその理由)	拡 充	御柱祭の終了による事業終了。